

平成23年3月期
第1四半期
決算概要

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

1. 業績概要 (平成 23 年 3 月期 第 1 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】 P. 2・3 参照)

(単位：億円)

	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	増減額
売上高	992	1,128	136
営業利益	43	63	21
経常利益	43	72	29
四半期純利益	27	46	19
為替レート (円/US\$)	97.36円	92.00円	
為替レート (円/EUR)	132.67円	117.02円	
国産ナフサ (円/KL)	33,300円	49,300円	

	22年3月期末	23年3月期 第1四半期末	増減額
総資産	4,329	4,331	2
純資産	2,572	2,542	△ 30
自己資本	2,494	2,464	△ 30
自己資本比率	57.6%	56.9%	

有利子負債	636	628	△ 7
D/Eレシオ	0.25	0.26	

- ◎ 売上高は前年同四半期に対して136億円・13.7%の増収となりました。
- ◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益で21億円・48.4%、経常利益で29億円・66.2%、四半期純利益で19億円・72.7%の、それぞれ増益となりました。
- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べ2億円増の、4,331億円、純資産は、30億円減の、2,542億円となりました。また、有利子負債残高は、7億円減の、628億円となりました。

2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	増減額	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	増減額
化成品	19,284	21,792	2,508	523	530	6
機能性樹脂	14,739	17,524	2,784	1,673	2,048	375
発泡樹脂製品	12,655	13,885	1,229	883	1,169	286
食品	29,957	30,578	620	2,165	2,289	123
ライフサイエンス	8,920	11,996	3,075	1,058	2,635	1,577
エレクトロニクス	8,686	9,908	1,221	△917	△861	55
合成繊維、その他	4,994	7,147	2,152	436	339	△97
調整額	—	—	—	△1,561	△1,828	△266
計	99,240	112,832	13,592	4,261	6,322	2,061

※23年3月期第1四半期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しておりますが、報告セグメントの変更はありません。但し、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。組み替えによる影響は軽微であります。

- ◎ 売上高は7セグメント全てが増収となりました。営業利益では合成繊維、その他を除く6セグメントが増益となりました。
- ◎ 為替は対ドル、ユーロともに円高となり、前年同四半期に対して売上高で△23億円、営業利益で△7億円の影響がありました。
- ◎ 当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。
 - ・ 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移するとともに、原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正に注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内需要が回復するとともにコストダウン等が寄与しましたが、か性ソーダは、海外市況の低迷が続きました。以上の結果、当セグメントの売上高は21,792百万円と前年同四半期と比べ2,508百万円(13.0%増)の増収となり、営業利益は530百万円と前年同四半期と比べ6百万円の増益となりました。
 - ・ 機能性樹脂事業

モディファイヤーは、アジア市場の需要が活発化し、欧米市場でも需要

が回復基調となる中で、原燃料価格上昇の影響を強く受けましたが、製品差別化力の向上及びコストダウン等の収益体質強化に徹底して取り組みました。変成シリコーンポリマーは、日本・欧州の建築関連需要が低調に推移する中で前年同四半期を上回る販売数量となりましたが、原燃料価格の上昇が響き収益は伸び悩みました。以上の結果、当セグメントの売上高は17,524百万円と前年同四半期と比べ2,784百万円(18.9%増)の増収、営業利益は2,048百万円と前年同四半期と比べ375百万円の増益となりました。

- ・ 発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅用途向けの販売が増加したものの、全般的に需要は低調に推移し、原燃料価格上昇に対応した製造コストダウンと経費削減に徹底して取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、日本・アジア・欧州市場の需要が堅調に推移するとともに、コスト合理化による収益体質の強化に注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は13,885百万円と前年同四半期と比べ1,229百万円(9.7%増)の増収、営業利益は1,169百万円と前年同四半期と比べ286百万円の増益となりました。

- ・ 食品事業

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景に需要が伸び悩む中で、競争激化に伴う販売価格の下落と油脂原料価格の上昇の影響を受けましたが、新製品拡販などにより前年同四半期を上回る販売数量を確保するとともに、コストダウンにより収益確保に努めました。以上の結果、当セグメントの売上高は30,578百万円と前年同四半期と比べ620百万円(2.1%増)の増収、営業利益は2,289百万円と前年同四半期と比べ123百万円の増益となりました。

- ・ ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が前年同四半期を上回りました。機能性食品素材は、米国市場を中心に既存品・高機能品ともに販売数量が増加し、コストダウンにも注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は11,996百万円と前年同四半期と比べ3,075百万円(34.5%増)の増収、営業利益は2,635百万円と前年同四半期と比べ1,577百万円の増益となりました。

- ・ エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、販売が低調に推移したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、エレクトロニクス製品市場の回復に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、国内及び欧州市場の販売数量が増加しましたが、競

争の激化に伴う販売価格下落の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 9,908 百万円と前年同四半期と比べ 1,221 百万円（14.1%増）の増収、営業損失は 861 百万円と前年同四半期と比べ 55 百万円減少しました。

- ・ 合成繊維、その他事業

合成繊維は、海外市場の需要回復により販売数量が増加する一方、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格上昇の影響を強く受けました。また、その他事業は、売上高が減少しましたが、収益を確保しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 7,147 百万円と前年同四半期と比べ 2,152 百万円（43.1%増）の増収、営業利益は 339 百万円と前年同四半期と比べ 97 百万円の減益となりました。

3. 海外売上高の状況

(単位：億円)

	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	増減額	増減率
アジア	152	185	33	+22.0%
北米	58	87	29	+50.3%
欧州	84	97	13	+15.6%
その他	33	45	13	+38.9%
海外売上高計 (海外売上高比率)	326 (32.9%)	414 (36.7%)	88	+27.0%

- ◎ 中国をはじめとするアジア圏の景気回復に伴い、アジアの売上高が増加、欧米についても需要が回復基調となりモディファイヤーなどの販売が拡大、全地域で増収となりました。海外売上高は前年同四半期に対して 88 億円増加し、海外売上高比率も前年同四半期 32.9%に対して 36.7%と上昇しました。

4. 連結貸借対照表 (平成23年3月期 第1四半期決算短信 【添付資料】 P. 6・7参照)
(単位: 億円)

		22年3月期末	23年3月期 第1四半期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,097	16
	固定資産等	2,247	2,234	△14
	合計	4,329	4,331	2
負債	有利子負債	636	628	△7
	その他	1,121	1,161	39
	合計	1,757	1,789	32
純資産	自己資本	2,494	2,464	△30
	少数株主持分 他	78	78	0
	合計	2,572	2,542	△30
負債、純資産 合計		4,329	4,331	2

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したものの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べ2億円増の、4,331億円となりました。有利子負債残高は、短期借入金および長期借入金の返済により、7億円減少しました。純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により、30億円減少しました。

5. 連結キャッシュ・フロー計算書 (平成23年3月期 第1四半期決算短信 【添付資料】 P. 9参照)
(単位: 億円)

	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	184	130	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△54	△71	△18
フリー・キャッシュ・フロー	130	58	△72
財務活動によるキャッシュ・フロー	△122	△33	89
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	12	20	9
現金及び現金同等物の四半期末残高	265	426	161

- ◎ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等によりプラス130億円、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等によりマイナス71億円、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払等によりマイナス33億円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、426億円となりました。

6. 業績予想 (平成23年3月期 第1四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 3参照)

- ◎ 当第1四半期の事業環境は、アジア市場の需要拡大及び欧米市場の需要回復を中心に改善が進んだものの、足元の経済情勢は、欧州の金融不安と急速な円高の進行、世界的な株式市況の悪化や新興国をはじめとする景気減速の懸念などにより、先行きは不透明な状況に転じてきております。このような状況をふまえて、当社グループは各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減等の収益確保策に徹底して取り組んでまいります。

なお、第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

前回発表予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期(累計)	2,200	100	90	50
通期	4,500	230	210	110

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。